

## 報告タイトル

「中国共産党による国内・対外宣伝の計量分析—危機下における正統性維持に注目して」

Tarnishing the Greener Grass on the Other Side: China's Propaganda Strategy Prioritizing Legitimacy Over Information Credibility

## 氏名(所属)

御器谷裕樹 (慶應義塾大学院)

MIKIYA Yuki (Graduate School, Keio University)

## 要旨(800字程度)

一部の権威主義体制は、体制維持のために明白な抑圧や言論の完全な統制を行うだけでなく、選択的な情報操作という巧妙な手法を用いると考えられている。そうした体制は、理論的には宣伝政策において体制の正統性を主張しつつ、情報の信頼性を高めることで効果的な成果を得ることを志向する。本研究は中国共産党が宣伝において正統性の構築と情報の信頼性の向上とのバランスをどのように図ろうとしているかを推定した。既存の研究は、宣伝による教化、体制の強靱性の誇示、転嫁など様々な要因があることを明らかにしている。その一方で、それらの複数の要素が如何に宣伝内容を規定しているかについては検討の余地がある。この論点は主に計算機資源やデータの制約から、宣伝内容の大規模で動的な変化を捕捉することが困難であることから生じている。そこで本研究は、1年以上にわたって収集した国内外の宣伝情報（機関紙の文章データ）を対象に、機械学習を用いた計量分析を行った。具体的には国内宣伝、対外宣伝を国際的な言説と時系列的に比較することで、いつどのような内容に関する宣伝内容が増加するかを特定した。結果として、中国共産党による国内外における宣伝内容は、聴衆を想定した違いがあることが明らかになった。さらに、埋め込みモデルや前後比較を組み合わせた結果、特に中国共産党の正統性を脅かす危機下において（その危機の性質が米国に関係が薄いにもかかわらず）米国批判を強めることが分かった。こうした傾向は、中国が平時において情報の信頼性と正統性維持のバランスを図ろうとしているものの、危機時には正統性を優先することを示唆している。